

【公開版】

提出年月日	令和元年 10 月 11 日	R2
日本原燃株式会社		

六ヶ所再処理施設における  
新規制基準に対する適合性

安全審査 整理資料

第17条：使用済燃料の貯蔵施設等



# 目 次

## 1 章 基準適合性

### 1. 規則への適合性

### 2. 設計の基本方針

#### 2. 1 一般構造

##### 2. 1. 1 使用済燃料の貯蔵施設等

#### 2. 2 構造及び設備

##### 2. 2. 1 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の構造 及び設備

##### 2. 2. 2 製品貯蔵施設の構造及び設備

##### 2. 2. 3 放射性廃棄物の廃棄施設の構造及び設備

### 3 設備等

#### 3. 1 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設

##### 3. 1. 1 概要

##### 3. 1. 2 設計方針

##### 3. 1. 3 主要設備の仕様

##### 3. 1. 4 系統構成及び主要設備

###### 3. 1. 4. 1 使用済燃料貯蔵設備

##### 3. 1. 5 評価

#### 3. 2 製品貯蔵施設

##### 3. 2. 1 概要

##### 3. 2. 2 ウラン酸化物貯蔵設備

###### 3. 2. 2. 1 概要

###### 3. 2. 2. 2 設計方針

- 3. 2. 2. 3 主要設備の仕様
- 3. 2. 2. 4 系統構成及び主要設備
- 3. 2. 2. 5 評価
- 3. 2. 3 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備
  - 3. 2. 3. 1 概要
  - 3. 2. 3. 2 設計方針
  - 3. 2. 3. 3 主要設備の仕様
  - 3. 2. 3. 4 系統構成及び主要設備
  - 3. 2. 3. 5 評価
- 3. 3 放射性廃棄物の廃棄施設
  - 3. 3. 1 気体廃棄物の廃棄施設
    - 3. 3. 1. 1 換気設備
      - 3. 3. 1. 1. 1 設計方針
      - 3. 3. 1. 1. 2 系統構成及び主要設備
      - 3. 3. 1. 1. 3 評価

## 2章 補足説明資料

## 1 章 基準適合性



## 1. 規則への適合性

「再処理施設の位置，構造及び設備の基準に関する規則」第十七条では，以下の要求がされている。

(使用済燃料の貯蔵施設等)

第十七条 再処理施設には，次に掲げるところにより，使用済燃料の受入れ施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）及び貯蔵施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）を設けなければならない。

一 使用済燃料を受け入れ，又は貯蔵するために必要な容量を有するものとする。

二 冷却のための適切な措置が講じられているものであること。

2 再処理施設には，次に掲げるところにより，製品貯蔵施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）を設けなければならない。

一 製品を貯蔵するために必要な容量を有するものとする。

二 冷却のための適切な措置が講じられているものであること。

### 適合のための設計方針

#### 第1項について

使用済燃料の貯蔵容量は，最大再処理能力 $800 \text{ t} \cdot U_{P_r} / y$ での再処理に対して受け入れた使用済燃料を3年間以上貯蔵できる $3,000 \text{ t} \cdot U_{P_r}$ とし，燃料貯蔵プールでは，使用済燃料の崩壊熱による過度な温度上昇を防ぐため，1系統で必要な崩壊熱除去機能を有するプール水冷却系を2系統設ける設計とする。

使用済燃料の冷却期間について，受入れ及び貯蔵を行う使用済燃料については概ね12年（燃料貯蔵プールの容量 $3,000 \text{ t} \cdot U_{P_r}$ のうち，冷

却期間4年以上12年未満の使用済燃料の貯蔵量が $600 \text{ t} \cdot \text{U}_{\text{Pr}}$ 未満、それ以外は冷却期間12年以上)に、再処理を行う使用済燃料については15年以上冷却されたものに変更しているが、使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の必要な崩壊熱除去機能の算定に当たっては、旧申請書等の使用済燃料の冷却条件により算定する。

#### 第2項について

ウラン酸化物の貯蔵容量は、 $4,000 \text{ t} \cdot \text{U}$  (ここでいう  $\text{t} \cdot \text{U}$  は金属ウラン質量換算である。) のウラン酸化物を貯蔵できる容量を有する設計とする。ただし、ウラン酸化物については、崩壊熱量が少ないため常時冷却の必要はない。

ウラン・プルトニウム混合酸化物の貯蔵容量は、 $60 \text{ t} \cdot (\text{U} + \text{Pu})$  (ここでいう  $\text{t} \cdot (\text{U} + \text{Pu})$  は金属ウラン及び金属プルトニウム質量換算である。) のウラン・プルトニウム混合酸化物を貯蔵できる容量とし、混合酸化物貯蔵容器からの崩壊熱による過度な温度上昇を防ぐため、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備に多重化した排風機を設ける設計とする。

【補足説明資料1-1】

## 2. 設計の基本方針

### 2. 1 一般構造

#### 2. 1. 1 使用済燃料の貯蔵施設等

使用済燃料受入れ・貯蔵建屋に収納される使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設は、使用済燃料を受け入れ、又は貯蔵するために必要な容量を有する設計とする。

また、使用済燃料の冷却のための適切な措置を講ずる設計とする。

ウラン酸化物貯蔵建屋及びウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋に収納される製品貯蔵施設は、製品を貯蔵するために必要な容量を有する設計とする。

また、混合酸化物貯蔵容器の冷却のための適切な措置を講ずる設計とする。

使用済燃料の貯蔵施設等は、使用済燃料の受入れ又は貯蔵するために必要な容量を有する使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設及び製品を貯蔵するために必要な容量を有する製品貯蔵施設を設ける。

また、使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設については、1系統で必要な崩壊熱除去機能を有するプール水冷却系を2系統設ける。製品貯蔵施設のうち、ウラン酸化物貯蔵設備については、崩壊熱除去のための常時冷却は不要であり、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備については、多重化された排風機で空冷することにより、必要な崩壊熱除去を行う設計とする。

使用済燃料の冷却期間について、受入れ及び貯蔵を行う使用済燃料については概ね12年（燃料貯蔵プールの容量 $3,000 \text{ t} \cdot U_{P_r}$ のうち、冷却期間4年以上12年未満の使用済燃料の貯蔵量が $600 \text{ t} \cdot U_{P_r}$ 未満、それ以外は冷却期間12年以上）に、再処理を行う使用済燃料については15年以上冷却され

たものに変更しているが、使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の必要な崩壊熱除去機能の算定に当たっては、旧申請書等の使用済燃料の冷却条件により算定する。

【補足説明資料1-1】

2. 2 構造及び設備

2. 2. 1 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の構造及び設備

(1) 構造

使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設は、使用済燃料の受入れ施設及び使用済燃料の貯蔵施設で構成する。

(i) 使用済燃料の貯蔵施設

使用済燃料の貯蔵施設は、使用済燃料集合体を貯蔵し、せん断処理施設へ移送する使用済燃料貯蔵設備1系列（一部2系列）で構成する。その主要な設備である燃料貯蔵プールはライニング構造とし、使用済燃料からの崩壊熱を適切に除去し、プール水は補給水設備から適切に供給できる設計とする。

(iii) 最大受入能力及び最大貯蔵能力

(a) 最大受入能力

$15.2 \text{ t} \cdot U_{PR} / \text{d}$ （BWR使用済燃料受入れ時）又は

$12.9 \text{ t} \cdot U_{PR} / \text{d}$ （PWR使用済燃料受入れ時）

なお、年間の最大受入れ量は、 $1,000 \text{ t} \cdot U_{PR}$ とする。

(b) 最大貯蔵能力

燃料貯蔵プール : BWR使用済燃料集合体 $1,500 \text{ t} \cdot U_{PR}$   
(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が  
2.0wt%を超えるもの  $11.8 \text{ t} \cdot U_{PR}$ )

PWR 使用済燃料集合体  $1,500 \text{ t} \cdot U_{Pr}$   
(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が  
2.0wt%を超えるもの  $27.6 \text{ t} \cdot U_{Pr}$ )

## 2. 2. 2 製品貯蔵施設の構造及び設備

### (1) 構造

製品貯蔵施設は、脱硝施設のウラン脱硝設備で処理したウラン酸化物を受け入れ貯蔵するウラン酸化物貯蔵設備、及び脱硝施設のウラン・プルトニウム混合脱硝設備で処理したウラン・プルトニウム混合酸化物を受け入れ、貯蔵するウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備で構成する。

### (2) 貯蔵する製品の種類及びその種類ごとの最大貯蔵能力

#### (i) 貯蔵する製品の種類

(a) ウラン (ウラン酸化物)

(b) ウランとプルトニウムの混合物 (ウラン・プルトニウム混合酸化物)

#### (ii) 最大貯蔵能力

(a) ウラン

$4,000 \text{ t} \cdot U$

(b) ウランとプルトニウムの混合物 (ウランとプルトニウムの重量混合比は 1 対 1)

$60 \text{ t} \cdot (U + Pu)$

## 2. 2. 3 放射性廃棄物の廃棄施設の構造及び設備

### (1) 気体廃棄物の廃棄施設

(i) 主要な設備及び機器の種類

(a) 換気設備

(イ) ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系

建屋排気フィルタ ユニット (高性能粒子フィルタ 2 段内蔵形)

7 基

粒子除去効率 99.9%以上 (0.3  $\mu$ m DOP 粒子) / 段

貯蔵室排気フィルタ ユニット (高性能粒子フィルタ 2 段内蔵形)

17 基

粒子除去効率 99.9%以上 (0.3  $\mu$ m DOP 粒子) / 段

建屋排風機 2 台

貯蔵室排風機 4 台

### 3 設備等

#### 3. 1 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設

##### 3. 1. 1 概 要

使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設は、使用済燃料の受入れ施設及び使用済燃料の貯蔵施設で構成する。

使用済燃料の貯蔵施設は、使用済燃料集合体を再処理するまでの期間の貯蔵及びせん断処理施設への送出しを行う使用済燃料貯蔵設備である。

##### 3. 1. 2 設計方針

###### (3) 崩壊熱除去

燃料貯蔵プール・ピット等は、崩壊熱を除去でき、構造物（コンクリート）の健全性を維持できる設計とする。

###### (6) 貯蔵容量

燃料貯蔵プールは、使用済燃料の受入れ及び再処理に対して適切な貯蔵容量を有する設計とする。

##### 3. 1. 3 主要設備の仕様

###### (2) 使用済燃料貯蔵設備

使用済燃料貯蔵設備の主要設備の仕様を第3.3-2表に示す。

##### 3. 1. 4 系統構成及び主要設備

###### 3. 1. 4. 1 使用済燃料貯蔵設備

###### (1) 系統構成

使用済燃料貯蔵設備は、使用済燃料受入れ設備から移送された使用済燃料集合体をせん断処理施設に送り出すまでの間貯蔵する設備であり、

燃料移送設備，燃料貯蔵設備，燃料送出し設備，プール水浄化・冷却設備及び補給水設備で構成する。

### 3. 1. 5 評 価

#### (1) 崩壊熱除去

燃料貯蔵プール・ピット等は，プール水冷却系を2系列設けており，使用済燃料集合体を容量いっぱい貯蔵した場合でも，1系列でプール水温度を65℃以下に維持できる設計としているので，崩壊熱を十分に除去することができる。

#### (2) 貯蔵容量

燃料貯蔵プールは，貯蔵容量3,000 t・ $U_{Pr}$ を有する設計としているので，最大再処理能力での再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる。

第3.3-2表 使用済燃料貯蔵設備の主要設備の仕様

(1) 燃料貯蔵設備\*

a. 燃料貯蔵プール

種 類	水プール式
基 数	3 (BWR燃料用1基, PWR燃料用1基, BWR燃料及びPWR燃料用1基)
容 量	3,000 t・U <sub>Pr</sub> /3基
ライニング材料	ステンレス鋼

d. 燃料貯蔵ラック

名称 項目	低残留濃縮度 BWR燃料貯蔵 ラック	低残留濃縮度 PWR燃料貯蔵 ラック	高残留濃縮度 BWR燃料貯蔵 ラック	高残留濃縮度 PWR燃料貯蔵 ラック
種 類	たて置ラック式	たて置ラック式	たて置ラック式	たて置ラック式
基 数	60	63	2	3
ラック 格子の 中心間距離	約18.8cm	約31.0cm	約35.0cm	約47.5cm
容 量	143体/基	56体/基	30体/基	20体/基
主要材料	ステンレス鋼	ステンレス鋼	ステンレス鋼	ステンレス鋼

(4) プール水浄化・冷却設備\*

a. プール水冷却系

(a) 熱交換器

種 類	たて置U字管式
基 数	3 (うち1基は予備)
容 量	約 $1.8 \times 10^7$ kcal/h/基

(b) ポンプ

種 類	うず巻式
台 数	3 (うち1台は予備)
容 量	約1,600・／h／台

注) \*印の設備は，再処理設備本体の運転開始に先立ち使用する。

\*\*印の設備のうち一部は，再処理設備本体の運転開始に先立ち使用する。

### 3. 2 製品貯蔵施設

#### 3. 2. 1 概 要

製品貯蔵施設は、ウラン酸化物貯蔵設備及びウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備で構成する。

ウラン酸化物貯蔵設備は、脱硝施設のウラン脱硝設備で生成したウラン酸化物（以下「 $UO_3$ 」という。）粉末の製品を貯蔵する設備である。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備は、脱硝施設のウラン・プルトニウム混合脱硝設備で生成したウラン・プルトニウム混合酸化物（ $UO_2 \cdot PuO_2$ ，以下「MOX」という。）粉末の製品を貯蔵する設備である。

#### 3. 2. 2 ウラン酸化物貯蔵設備

##### 3. 2. 2. 1 概 要

ウラン酸化物貯蔵設備は、脱硝施設のウラン脱硝設備で生成した製品である $UO_3$ 粉末を充てんしたウラン酸化物貯蔵容器を受け入れ、貯蔵し、払い出す設備である。

##### 3. 2. 2. 2 設計方針

###### (1) 貯蔵容量

ウラン酸化物貯蔵設備は、適切な貯蔵容量を有する設計とする。

##### 3. 2. 2. 3 主要設備の仕様

ウラン酸化物貯蔵設備の主要設備の仕様を第5.2-1表に示す。

なお、貯蔵バスケット概要図を第5.2-1図に示す。

### 3. 2. 2. 4 系統構成及び主要設備

ウラン酸化物貯蔵設備の最大貯蔵能力は、4,000t・U（ここでいうt・Uは金属ウラン重量換算である。）である。

### 3. 2. 2. 5 評 価

#### (1) 貯蔵容量

ウラン酸化物貯蔵設備は、製品である $UO_3$ 粉末を4,000 t・U貯蔵できる。

第5.2-1表 ウラン酸化物貯蔵設備の主要設備の仕様

(1) 貯蔵バスケット貯蔵エリア

容 量 貯蔵バスケット1,000基

(2) ウラン酸化物貯蔵容器

種 類 たて置円筒形

本 数 1式

容 量 約1,000 k g ・ U / 貯蔵容器

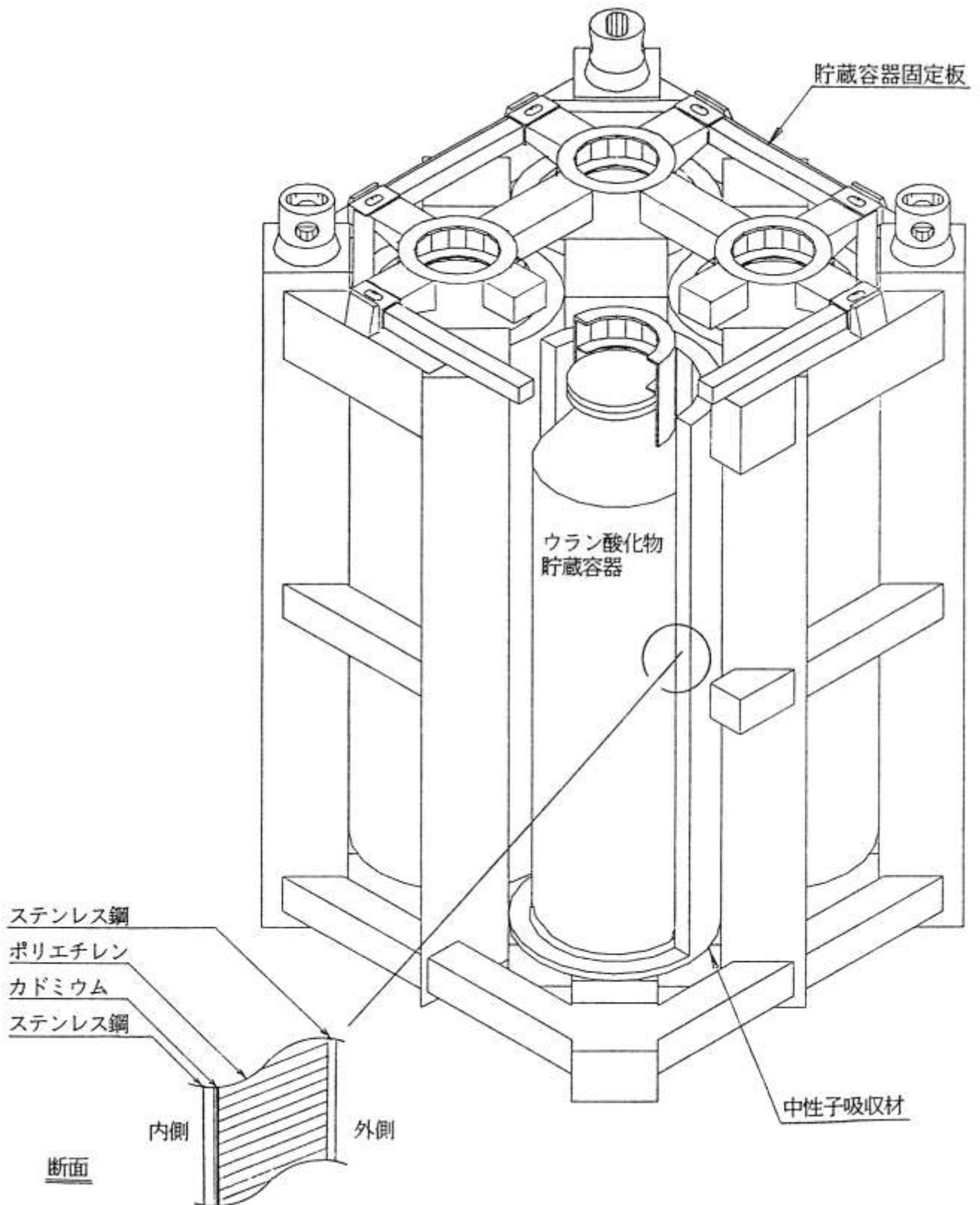
主要材料 ステンレス鋼

(3) 貯蔵バスケット

種 類 たて置式

基 数 1式

容 量 ウラン酸化物貯蔵容器4本 / 貯蔵バスケット



第 5.2-1 図 貯蔵バスケット概要図

### 3. 2. 3 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備

#### 3. 2. 3. 1 概 要

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備は、ウラン・プルトニウム混合脱硝設備からMOX粉末充てん済みの粉末缶を収納した混合酸化物貯蔵容器を受入れ、貯蔵し、払い出す設備である。

#### 3. 2. 3. 2 設計方針

##### (1) 崩壊熱除去

貯蔵ホールは、崩壊熱による過度の温度上昇を防止するため、適切な冷却機能を有する設計とする。

##### (2) 貯蔵容量

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備は、適切な貯蔵容量を有する設計とする。

#### 3. 2. 3. 3 主要設備の仕様

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備の主要設備の仕様を第5.3-1表に示す。

なお、貯蔵ホール概要図を第5.3-1図に示す。

#### 3. 2. 3. 4 系統構成及び主要設備

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備の最大貯蔵能力は、60 t・(U+Pu) (ここでいう t・(U+Pu) は、金属ウラン及び金属プルトニウムの合計質量換算である。ウランとプルトニウムの質量混合比は1対1) である。

### 3. 2. 3. 5 評 価

#### (1) 崩壊熱除去

貯蔵ホールは、気体廃棄物の廃棄施設のウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備により、換気を適切に行う設計とするので、崩壊熱を除去できる。

#### (2) 貯蔵容量

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備は、製品であるMOX粉末を60 t・(U+Pu)貯蔵できる。

第5.3-1表 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備  
の主要設備の仕様

(1) 粉末缶 (MOX燃料加工施設と共用)

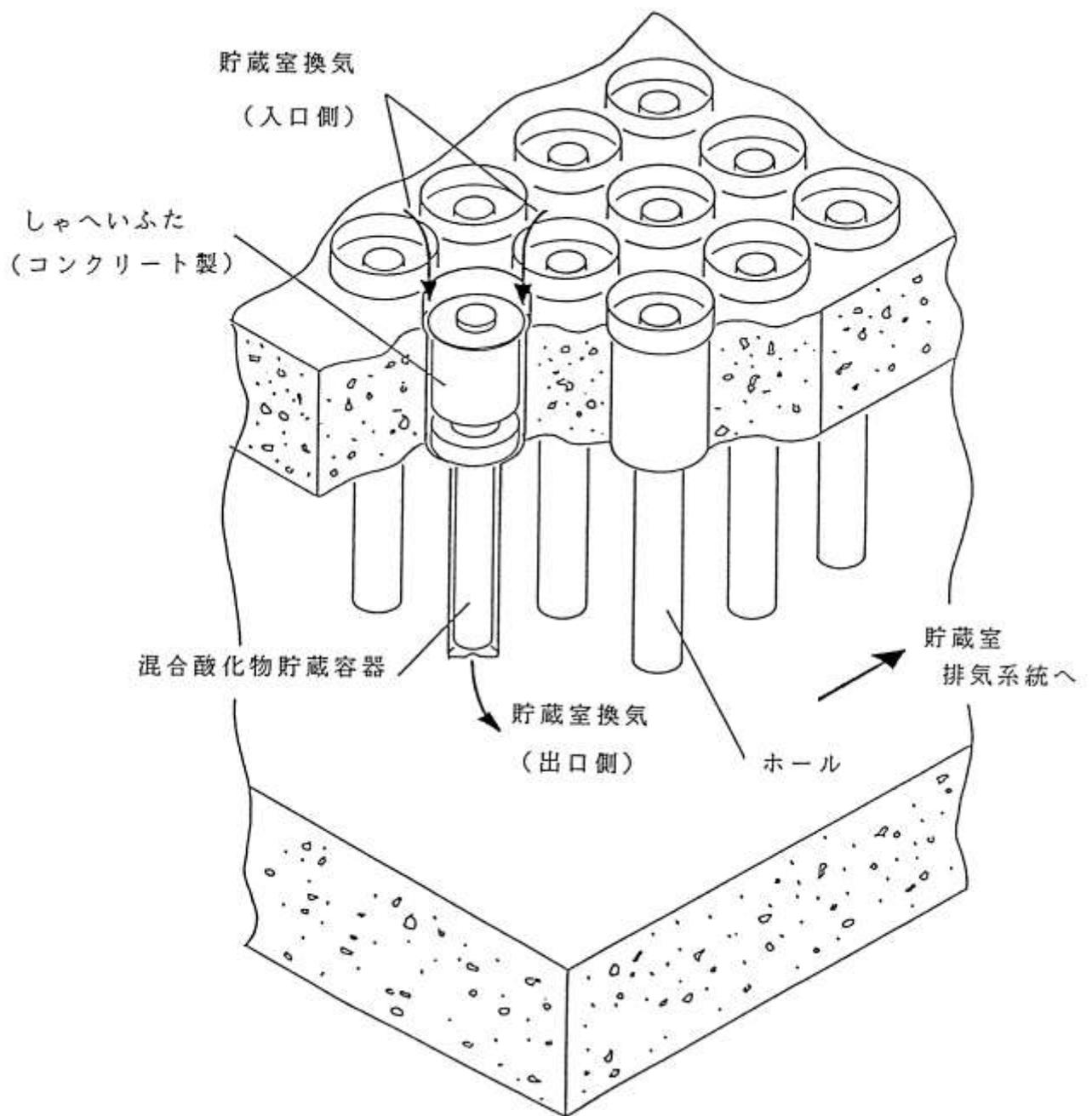
種類	たて置円筒形
缶数	1式
容量	約12kg・(U+Pu) / 缶
主要材料	アルミニウム合金

(2) 混合酸化物貯蔵容器 (MOX燃料加工施設と共用)

種類	たて置円筒形
本数	1式
容量	粉末缶3缶 / 貯蔵容器
主要材料	ステンレス鋼

(3) 貯蔵ホール

種類	換気空冷・たて置円筒管貯蔵方式
構成	ホール1,680本 (混合酸化物貯蔵容器1本 / ホール)
容量	混合酸化物貯蔵容器1,680本



第 5.3-1 図 貯蔵ホール概要図

### 3. 3 放射性廃棄物の廃棄施設

#### 3. 3. 1 気体廃棄物の廃棄施設

##### 3. 3. 1. 1 換気設備

###### 3. 3. 1. 1. 1 設計方針

###### (1) 単一故障

換気設備の安全上重要な系統及び機器は、それらを構成する動的機器に単一故障を仮定しても、安全機能が確保できる設計とする。

###### (2) 外部電源喪失

換気設備の安全上重要な系統の排風機は、非常用所内電源系統に接続し、外部電源が喪失した場合でも安全機能が確保できる設計とする。

###### (3) 崩壊熱除去

換気設備により崩壊熱を除去する必要がある場合には、崩壊熱による過度の温度上昇を防止するため、適切な換気を行える設計とする。

###### (4) 試験及び検査

換気設備の安全上重要な系統の排風機、高性能粒子フィルタは、必要に応じて試験及び検査ができる設計とする。

###### 3. 3. 1. 1. 2 系統構成及び主要設備

###### (1) 系統構成

###### a. ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備は、以下の系統で構成する。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋給気系

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備系統概要図を第7.

2-26図に、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備の主要設備の仕様を第7.2-21表に示す。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋給気系は、2系統の給気系を設置する。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋給気系は、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋の管理区域へ外気を供給するため、建屋給気ユニット、貯蔵室送風機及び建屋送風機で構成する。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系は、2系統の排気系を設置する。

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系は、貯蔵室排気フィルタユニット、建屋排気フィルタユニット、貯蔵室排風機及び建屋排風機で構成する。

貯蔵室排気フィルタユニット及び貯蔵室排風機は、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋の貯蔵室の換気を行い、混合酸化物貯蔵容器からの崩壊熱の除去、貯蔵室の負圧維持、排気の浄化及び排気の低レベル廃棄物処理建屋換気筒の排気口からの排出ができる設計とする。

建屋排気フィルタユニット及び建屋排風機は、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋の汚染のおそれのある区域の負圧維持、排気の浄化及び排気の低レベル廃棄物処理建屋換気筒の排気口からの排出ができる設計とする。

## (2) 主要設備

ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系の建屋排風機及び貯蔵室排風機は多重化し、非常用所内電源系統に接続するとともに、その1系列の試験及び検査中においても、予備系列のあるものは予備系列に切り替え又は予備系列のないものは排風機を分割することにより、運転

できる設計とする。また、排風機の流量を測定することにより、運転状態を監視できる設計とする。

換気設備の排気系の高性能粒子フィルタは多重化し、その試験及び検査中においても、排気量を損なうことなく運転できるとともに、前後の差圧を測定することにより、運転状態を監視できる設計とする。また、高性能粒子フィルタは、前後の差圧を測定できる設計とする。

### 3. 3. 1. 1. 3 評 価

#### (1) 単一故障

換気設備の安全上重要な系統の排風機は、多重化しているため、単一故障を仮定しても、崩壊熱除去機能を確保できる。

#### (2) 外部電源喪失

換気設備の安全上重要な系統の排風機は、その他再処理設備の附属施設の非常用所内電源系統に接続する設計としているため、外部電源喪失時に崩壊熱除去機能を確保できる。

#### (3) 崩壊熱除去

換気設備は、混合酸化物貯蔵容器からの崩壊熱を除去するため、貯蔵室の適切な換気を行う設計としているため過度の温度上昇を防止できる。

#### (4) 試験及び検査

換気設備の安全上重要な系統の排風機、高性能粒子フィルタは多重化する設計とするため、崩壊熱除去機能を損なうことなく必要に応じて試験及び検査ができる。

第7.2-21表 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備の  
主要設備の仕様

(1) ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋給気系

a. 建屋送風機

台数	2
容量	約2万4千 $\text{m}^3/\text{h}/\text{台}$

b. 貯蔵室送風機

台数	3(うち1台は予備)
容量	約7万2千 $\text{m}^3/\text{h}/\text{台}$

(2) ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋排気系

a. 建屋排気フィルタユニット

種類	高性能粒子フィルタ2段内蔵形
基数	7(うち1基は予備)
粒子除去効率	99.9%以上(0.3 $\mu\text{m}$ DOP粒子)/段
容量	約9千 $\text{m}^3/\text{h}/\text{基}$

b. 貯蔵室排気フィルタユニット

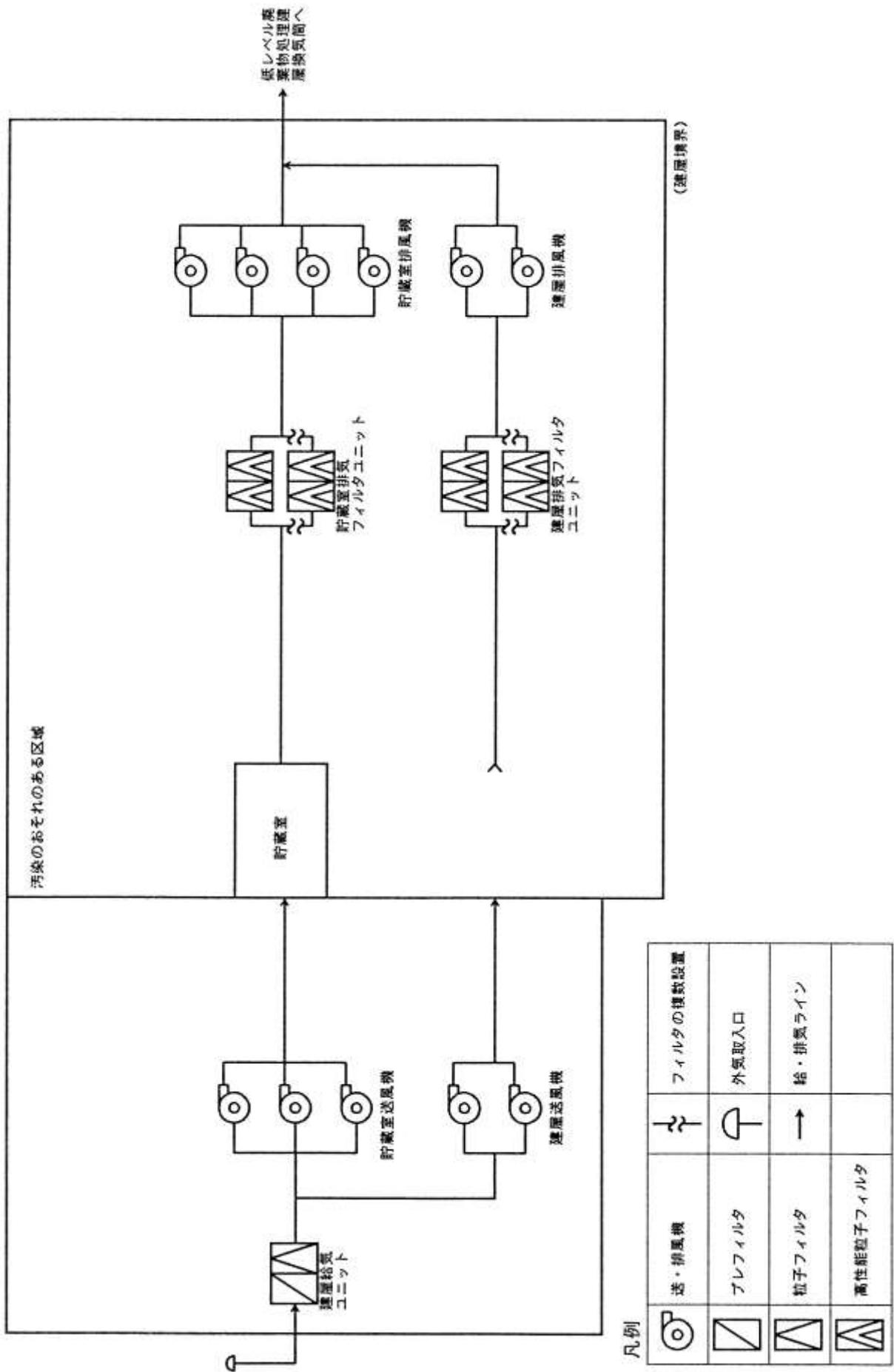
種類	高性能粒子フィルタ2段内蔵形
基数	17(うち1基は予備)
粒子除去効率	99.9%以上(0.3 $\mu\text{m}$ DOP粒子)/段
容量	約9千 $\text{m}^3/\text{h}/\text{基}$

c. 建屋排風機

台数	2
容量	約2万4千 $\text{m}^3/\text{h}/\text{台}$

d. 貯蔵室排風機

台 数	4 (うち 2 台は予備)
容 量	約 7 万 2 千 $\text{m}^3 / \text{h} / \text{台}$



第 7.2-26 図 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備系統概要図

## 2 章 補足説明資料



第17条:使用済燃料の貯蔵施設等

再処理施設 安全審査 整理資料 補足説明資料				備考(8月提出済みの資料については、資料番号を記載)	
資料No.	名称	提出日	Rev	名称	
補足説明資料1-1	安全審査資料			3章 安全審査資料	